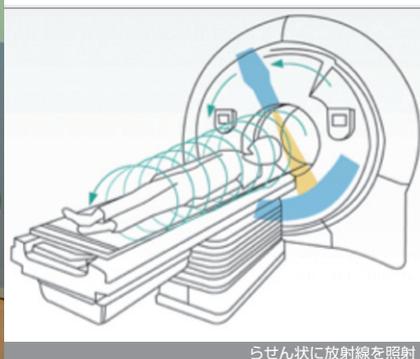


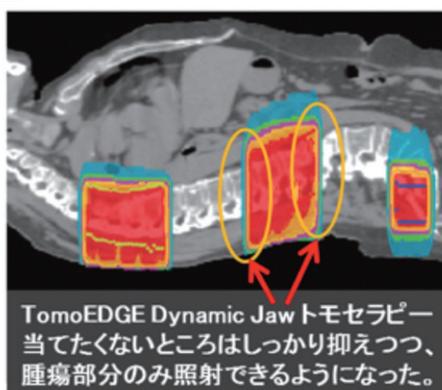
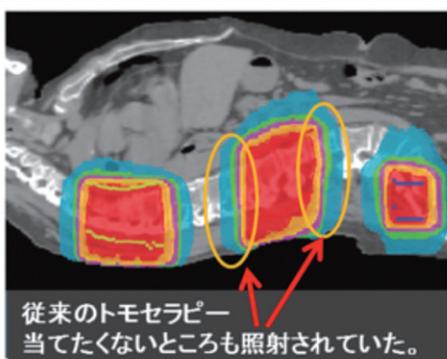
最新鋭の放射線治療装置を導入しました



病院新聞

さくら

平成26年
春号
NO.26
平成26年4月1日
春日井市民病院



春日井市民病院では放射線治療装置の更新に伴い、全国でもまだ約40台しか導入されていない放射線治療装置トモセラピーの最上位機種「トモセラピーHD」(愛知県下4台目)を導入し、4月から治療を開始します。

また、今回当院ではオプション機能として“TomoEDGE Dynamic Jaws”を追加することで従来よりも正常組織へのダメージを抑えつつ、腫瘍への効果的な照射を実現しました。このオプションが入っている機種は全国で5台目、愛知県下で2台目となります。この装置は次世代のがん治療との呼び声の高い高精度な放射線治療〔IMRT(強度変調放射線治療)、IGRT(画像誘導放射線治療)〕が行えます。

トモセラピーは、CTと放射線治療機器を組み合わせた装置で、正確に目的の部位だけを標的として放射線を照射するため、従来の装置では難しかったピンポイントの治療が可能となりました。周囲の正常組織への照射が軽減できるので、副作用が少なく、治療後の合併症や続発症も低下でき、そのため通常の手術では危険が伴う方や、余病のある方、高齢の方も不安なく治療していただけることが特徴です。

対象疾患は、脳腫瘍、頭頸部腫瘍(舌、咽頭、副鼻腔、聴器がんなど)、食道がん、肺がん、乳がん、直腸がん、子宮頸がん、前立腺がん、膵臓がん、悪性リンパ腫などで幅広く治療が行えます。

Contents

- 最新鋭の放射線治療装置を導入しました
- 市民病院ロゴマークが決定しました
- 救急外来が移転・拡充しました
- 院内助産体験談
- おやつレシピ
- シリーズ 薬の使い方 第1回 食間?食後2時間?食事中?
- 市民公開講座

市民病院ロゴマークが決定しました

ロゴマークは、春日井市民病院のイメージを地域住民の皆さんにアピールすることができ、地域の皆さんから愛される病院としてのイメージアップにつながります。また、職員にとっても当院に勤務する意識や連帯感を高めることができるため、平成25年11月1日～30日の期間、職員からデザインを募集しました。84作品の応募があり、審査の結果、当院薬剤師がデザインした作品をロゴマークとして採用することになりました。



コンセプト

桜の花びらで春日井市の「K」をかたどっています。それを取り囲む円は、地域の人々とのつながりを表しています。

花卉の桃色は「献身と労いの心」、円の青色が「誠実さ」、緑が「安全な医療に取り組む姿勢」、中心の黄色が「希望」を表しています。

春日井市民病院の基本理念である「自治体病院として地域の医療にかかわる要望に誠実かつ不断に応えることを存在の意義とする」を形にしたロゴマークです。

救急外来が移転・拡充しました

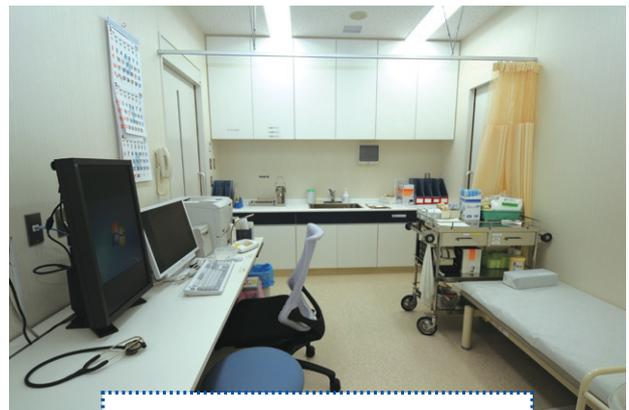
春日井市民病院救急部は平成26年2月18日(火)に春日井市総合保健医療センター棟へ移転しました。この救急部には、新たに専用のX線・CT装置や病床6床を備え、救急医療を拡充しました。また、救急処置室は同時に3人の患者さんを処置できるよう拡張しました。

当院の救急車受入件数は年々増加し、平成24年度は9,860件で県下第1位、全国第8位*でした。地域の皆様が安心して受診できる救急医療を目指してまいりますので、今後とも適正な受診へのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

*平成24年度の救急車受入件数及び順位は、「週刊ダイヤモンド」2013年10月26日号より引用



同時に3人の患者さんを処置できる救急処置室



広々とした診察室



救急部専用X線・CT装置



救急用に6室の病室を新たに設置

「院内助産体験談」

東2階病棟 院内助産プロジェクトチーム



産婦人科では、平成25年10月から「院内助産」を開設しました。

院内助産では、助産師が中心となって“お産”を担当しています。お母さんが本来持っている「自ら産む力」と赤ちゃんの「生まれる力」を手助けし、より自然なお産を目指しています。必要時に医師との連携をとり、より安心・安全なお産ができる環境を整えています。

1月末現在、7名が「院内助産」で出産されました。たくさんの感想をいただきましたので、一部紹介させていただきます。

助産外来について

- 時間を割いて説明してくれたり、質問にも丁寧に答えてくれたりと、初産の私にはありがたかった。
- こんなことを聞いても良いのだろうかという質問なども聞きやすくて良かった。
- 1回の健診ごとに丁寧に時間をかけてエコーを見せてくれるのでイメージが付きやすく、安心して健診を受けることができた。
- 助産師たちと親しく話をすることができるので、親近感が湧き、入院中も色々気兼ねなく相談することができた。
- 会陰マッサージは36週から2週間頑張ったかいあって、傷も小さくて効果があったようだった。

お産時の対応について

- 助産師と私たち夫婦だけだったので、お産に集中できたと思う。
- 私だけでなく、娘のことも気づかってもらえてうれしかった。
- 助産師と主人がサポートしてくれたので安心感があった。
- 音楽や照明に気を使ってもらい、リラックスできた。
- 何人でも家族が入れるのでいい。
- 自分の自然な姿勢を優先できたので、ストレスなく出産できた。
- 精神的にも体力的にも満足できた。
- フリースタイルで産むことができ、すごく楽だった。
- 夫と2人の時間を作ってもらえてうれしかった。夫も達成感があったようだった。



貴重なご意見ありがとうございました。今後も、産婦さんにご家族がより満足のいくお産ができるように、日々研鑽していきます。

おやつレシピ

今回ご紹介するおやつは、春の食材“いちご”を利用したものです。是非ご自宅でもお試しください。

苺のゼミルクゼリー (1個あたり82kcal)



〈材料〉 (5個分)

牛乳：400mL、水：100mL、砂糖：22g、粉寒天：4g、粉ゼラチン：2g※1

苺(いちご)：2.5個、苺ソース：適量

※1 粉ゼラチンはあらかじめ少量の水(分量外)でふやかしておいてください。粉ゼラチンに使用する水の量は、粉ゼラチンの使用説明を参考にしてください。

〈作り方〉

- ① 水を入れた鍋に粉寒天を入れ、混ぜながら2分ほど沸騰させて煮溶かす(火を強くしすぎないようにする。)
- ② あらかじめ水でふやかしておいた粉ゼラチンを①に入れ溶かす
- ③ ②に砂糖と牛乳を加えて(砂糖が溶けたら)火からおろす
- ④ ③をバットに入れ、粗熱をとったあと冷蔵庫で冷やし固める
- ⑤ 固まったら、正方形に切り分け、切った苺を添え、ソースをかけて出来上がり

◎当院(病院食)で提供するための材料・作り方です。ご家庭で作られる際は、お好みに合わせて分量を調整してください。

◎食物アレルギーのある方、糖尿病等の食事療法をされている方には、不向きな材料を使用している場合があります。

シリーズ 薬の使い方

第1回 食間？食後2時間？食事中？

昨今の製薬技術の進歩はめざましいものがあります。以前は入院して注射薬などを用いないと治療が出来なかったような疾患の一部は、保険薬局で調剤される錠剤などの薬で治療ができるようになってきています。

しかしちょっと考えてみましょう。例えば、口から飲み込む内服薬は、その後どうなって薬として働くのでしょうか。多くの(全てではありませんが)薬は食べ物のように吸収されないと薬としての働きをしません。つまりただ口から放り込むのではなく吸収されないと何の効果も発揮しません。当然といえば当然です。口から飲み込んだ時点で体内に入ったと思いがちですが、薬からみると口の中、胃の中等は体外です。まだ吸収されていないからです。

そこで問題となるのが、内服薬の体内への吸収です。錠剤等が入った薬袋には服用方法について「食後」や「食前」などと、食事のタイミングと合わせて指定されているものがあります。なかには「食間」というものがあります。薬の吸収は、栄養源となる食べ物と同じ過程をたどります。そのため薬の吸収に食べ物が大きく影響することがまれにあります。また、内服薬の服用方法には吸収の問題以外に、副作用を予防し、他の薬との相互作用を避けるために服用方法が指定されているものもあります。

今回のテーマは「食間？食後2時間？食事中？」です。この3つは同じものと異なるものがあります。実は食間と食後2時間は同じですが、食事中は本当に食事中に服用する方法です。

食間や食後2時間という服用方法は、胃の中に食べ物がない状態で服用して欲しい薬、胃に直接効果を発揮したい薬を服用する場合に用いられる用法です。また他の薬との関係性を避ける目的でこのような用法が選択される場合があります。この用法で服用する薬には、直接胃壁に作用して胃炎や胃潰瘍を治療する薬などが該当します。

一方、食事中という用法はよりよい効果をねらったり、あるいは副作用を予防する目的で用いられることがあります。食事中に服用する薬には神経内科や産婦人科等で用いられる薬があります。これは服用することで胸焼け等の胃部不快感軽減を目的として「食事中」という用法が使われることがあります。

みなさんの保険でまかなわれる薬です。効果的に、そして安全に使うためにも、薬は正しい方法で服用してください。



食間・食後2時間：胃が空の状態での服用することで胃に直接効果を発揮する薬

食事中：胸焼け等の胃部不快感軽減を目的として服用する薬



次回からも、「薬の使い方」について簡単に紹介してまいります。

市 民 公 開 講 座

春日井市民病院では、地域の皆様に病気の治療について理解を深めていただくための講座を年4回開催しています。平成26年度は次の日程で開催を予定しています。多くの方のご来場をお待ちしています。

開催月	テーマ	講師
平成26年6月21日(土)	体の健康は口の中から正しいブラッシング方法	歯科口腔外科医師 歯科衛生士
平成26年9月	腎臓病について	内科医師
平成26年12月	肺がんについて	呼吸器科医師
平成27年2月	食物アレルギーについて	小児科医師と管理栄養士

* 詳細については、広報春日井、病院ホームページ、院内掲示でお知らせします。

* 上記は予定です。変更になることもありますのでご了承ください。



〒486-8510 春日井市鷹来町1-1-1

電話 0568-57-0057(代)

診療予約専用電話 0568-57-0048

診療予約受付時間 9:00~15:00(休診日を除く)

さくら 平成26年春号

発行日 平成26年4月1日

発行元 広報委員会



春日井市民病院
ホームページ